



東京多摩プロバスニュース

第 41 号

■事務局：〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行：編集委員会 2012. 3. 7.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

共に学び、活動し、自己実現と社会貢献を

第 91 回 定例会

日時：平成 24 年 1 月 11 日(水)午後 1 時 30 分より

場所：関戸公民館第 3 学習室

出席者：30 名(会員数 38 名)

第 92 回 定例会

日時：平成 24 年 2 月 1 日(水)午後 1 時 30 分より

場所：関戸公民館第 3 学習室

出席者：31 名(会員数 38 名)

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

「プロバス」とは何か？

研修・親睦委員長 滝川益男



「プロバスって何や?・・・誰も答えられない」——元全日本プロバス協議会会長・中村健氏はそう言われた(昨年、大阪プロバスクラブ 10 周年記念式典での挨拶)。本場イギリスでプロバスの何たるかを学ばれた氏の言、正鵠を射ていると思う。

「クラブ」とはそもそも何か?一般には「会員制の集まり、社交・親睦団体などを指す」とされる(ウィキペディア)。17 世紀後半のロンドンで、喫茶室と社交場を兼ねたコーヒーハウスに集まった客たちが、定期的に集会を開いたのが起源といわれ、以後、「社交クラブ」を基軸に、「文学」「政治」「奉仕」「スポーツ(乗馬・狩猟・釣魚 etc.)」など各種のクラブが生まれ、19 世紀には世界の各地へ普及した。「奉仕クラブ」のロータリーから派生した「プロバス」は「社交」と「奉仕」を特徴とするが、イギリス本国や英連邦諸国では「社交」——卓話中心の親睦を旨としている。日本ではクラブごとに異なる特徴を持っているようだ。大阪のあるクラブは「会員の親睦専一」を掲げ、東京のあるクラブは「知的奉仕に勝る快樂なし」という。つまるところ、プロバスとは何だか判らないのである。だがそれがプロバスであり、それでよいのではないだろうか。

各クラブの特徴は、その構成メンバーによって決まるものようだ。当クラブには、教育者、建築家、国際交流関係者、茶道師範、その他、そうそうたるメンバーが揃っている。今後、この構成メンバーがそれぞれの特徴をどう発揮していくか、である。当クラブも 2 年後(2014 年 5 月 18 日)には 10 周年を迎える。多摩市民に喜ばれる良き「クラブ」を目指して、楽しく活動してまいりたい。

歓喜の春を迎えて爛漫の桜並木(多摩市宝野公園)



1. 幹事報告

稲田興幹事

- 1.1 埼玉浮き城プロバスクラブの設立記念式典が1月20日(金)に行田市のベルヴィアイトピアで挙行政され、当クラブより平田元会長が出席。
- 1.2 八王子プロバスクラブ主催の「生涯学習サロン」開講式が2月23日(木)に八王子市のエルシーで挙行政され、当クラブより大澤会長及び神谷副幹事が出席。
- 1.3 当クラブの俳句サークル「笈句会」が幹事役となり、「からまつ東京新年句会」が関戸公民館で1月20日(金)に開催、出句98参加50名。 関連記事P5参照。

2. 委員会報告

2.1 総務委員会

北村克彦委員長

- 1)1月度定例会(1月11日) 出席:30名 欠席:4名。
講話は、ワークショップデザイナーの増田みつ枝氏による「韓国から始まった私のキャリアデザイン」

関連記事P3参照。

- 2)2月度定例会(2月1日) 出席:31名 欠席:3名。
卓話、増山敏夫会員による「ブータンとはどんな国?GNH(国民総幸福)とは?」 関連記事P3参照。

- 3)1月から藤寄喬子さんが入会され、会員数は38名となりました。なお、このうち、現在4名(長嶋洋三・松永弘・山田喜一・永井岩男各会員)が休会中です。

2.2 研修・親睦委員会

滝川益男委員長

- 1)毎年恒例のお花見を来る4月11日(水)午前11時より桜ヶ丘公園にて開催します(雨天の場合は翌日同時刻に順延)。場所は聖蹟記念館横のあずまや付近。野点や余興で盛り上げ、楽しいお花見にしたいと思います。染井吉野の満開を期待しますが、万一散った後でも市の花・山桜が楽しめます。参加予定者数は2月度定例会で募ったところ27名でした。今後、ご家族など参加者が増えることを期待します。
- 2)3月度定例会では、5月の研修旅行につき詳細を発表の予定です。



研修・親睦委員会のメンバー(岡野事務所にて)

2.3 地域奉仕委員会

西村政晃委員長

- 1)古澤靖雄会員をメイン講師として、7年目「出前そろばん教室」を実施しました。

1月24日、26日市立貝取小学校で開催。続いて2月20日・21日・23日・24日には、市立第2小学校で行い、両校の授業に合計13名の会員が講師の助手役を務めました。

関連記事P5参照。

- 2)2月度定例会では、席上12月開催の市民企画講座「裁判員になるかもしれないあなたに」の講義録(大澤亘会長作成)を全員に配付しました。

2.4 広報委員会

増山敏夫委員長

プロバスニュース40号発行(1月11日発行)。41号(3月7日発行)の執筆依頼、編集、校正。編集委員会開催3回。なお、41号の寄稿連載「私の多摩ニュータウン」第3回は、永田宗義会員にお願いした。

3. プロジェクト報告

3.1 環境問題プロジェクト

村上伸茲リーダー

- 1)地球温暖化防止活動の一環として2年間続けてきた「炭酸ガス排出量調査」は平成24年1月度の集計でひとまず終わることにしたが、今後とも、会員の各家庭で炭酸ガス排出削減活動を継続していただきたい。いずれ近い将来、装いを新たに各家庭のエコ活動状況を集計したいと考えている。
- 2)多摩市民企画講座への申込みについては、基本的な考えとして「多摩市における緊急に解決すべき環境問題」をテーマにすることに落ち着いた。しかし、具体的テーマについては、今後、連光寺谷戸や大谷戸公園の調査、および環境保全団体との会議を通して決めることになった。

3.2 創立10周年記念事業プロジェクト

大澤亘リーダー

プロジェクトチームでは、前号で報告したとおり、昨年10月5日に第1回の会合を開いてから、11月・1月・2月の各月の定例会後に会合を開いてきた。

これまでに、①全国のプロバスクラブでは周年記念事業としてどんな取り組みを行っているか、②当クラブがこれまでにクラブの総力を挙げて行った平成21年の「創立5周年記念事業」と平成22年の「プロバスフェア」にどれだけの経費をかけたか、③記念行事の開催場所として多摩市内で利用できる施設にどんなものがあるかなど、記念事業を行うに際しての基礎資料や参考資料の収集に重点を置いて調査・検討を行った。そのうえで、チームのメンバー17名全員がそれぞれ「記念事業として何を考えるか」について意見を発表した。

今後は、さらに、準備体制をどう整えるか、予算の額とその調達方法をどうするか、などについて検討し、答申案をまとめる予定です。

「韓国から始まった私のキャリアデザイン」

増田みつ枝氏

1985年、テレビ局特派員の夫についてソウルに行き、34才で韓国語の勉強を始めた。民主化運動の激しかった軍事政権時代からソウルオリンピックまで激動の4年間を過ごした。延世大学で韓国語を学び主婦やタレントに日本語を教えた。

帰国後FM多摩放送で15年ラジオパーソナリティを勤めた。初めの頃は韓国の話しはタブーだったが、韓流で急にKポップや韓国の話が歓迎されるようになった。この10年で韓国に対する日本人の認識が大きく変わったといえる。

きっかけは韓国語の学習であったが、現在韓国語講師をしながらNPO法人日本ファシリテーション協会の会員として、自治体職員の研修や町づくりの市民ワークショップなど、生涯学習支援、人材育成ファシリテーターをしている。

ソウルで暮らし始めて、ぶつかっても謝らない韓国人にイライラすることがあった。その時、韓国の友人に「日本は迷惑をかけないように教育されているが、韓国は迷惑をかけあって当たり前前の社会、だからいちいち謝らない」と言われた。日本の常識に縛られ、ぎすぎすしていた自分はそれからとても楽に暮らせるようになった。

日本語の中にも「ちゃんぽん、ちよんがー、のっぽ、端から、奈良」など知らずに使われている韓国語があるし、

逆に韓国では植民地時代の影響で「えり、そで、てすり、むてっぽう」などの日本語をそのまま使う年配者も多い。韓国語は話せるようになる唯一の外国語だと思う。

「ハングルカフェ」という学びの場を主宰し、シニアの短期留学の支援、韓流をきっかけに様々な分野に関心を広げている。

2002年の日韓ワールドカップ共催も韓国を身近にした。この年は文化交流も盛んで、イベントの司会を務めた。法政大学キャリアデザイン学部に入學。社会人として大学側の要請で留学生のサポーターになり中国朝鮮族や韓国人、中国人学生の相談役となった。

吉林省延辺朝鮮族自治州へフィールドワークに出かけ、中国朝鮮族を事例に「東アジアのグローバル化時代をどう生きるか」という論文にまとめた。これは個人の力やネットワークで生きている留学生から積極的に学ぼうという日本の学生へのメッセージでもある。

講演後、今日の話を一時間、隣の人と感想を述べ合い、皆で共有するというバズセッションを行った。ファシリテーションの体験参加型のひとつの手法であるとのことだった。
(文責 北村克彦会員)



講演する増田みつ枝氏

ブータンとは？GNH（国民総幸福）とは？

増山敏夫会員

ヒマラヤの小さな王国・ブータンへは2度訪れた。殊に2度目は2009年のオフシーズン、年末から正月にかけて約2週間、西端のパロから谷越え山越え東端のダシカンまで少人数の旅を楽しんだ。国土は九州ほど、人口は島根県と同じ約70万人、極めて人口密度が低い。標高は100m～7,500mで1,000mから3,000mまでが伝統的な生活空間である。平地が少なく、急峻な地形の森林国。10%が首都ディンプーに居住する。唯一の輸出産業は、ヒマラヤからの急流を利用し得る電力である。国民の90%が仏教徒(チベット仏教)、労働人口の90%が自給自足的農業を営む。2005年調査によれば、国民の97%が「幸せ」と回答する羨ましい国である。

今話題のGNH(国民総幸福)とは、1972年に前国王が「GNPという経済的数値だけで国を評価するのではなく、国民の幸福感を何よりも大切にしたい」と、提唱した考え方である。ブータンの自



村祭・乙女の踊り

然環境と伝統文化を守り、急ぎすぎない開発を目指す理念である。子供達への環境保護教育を義務づけ、民族衣装の着用、国語であるゾンカ語の習得・使用、伝統的礼儀作法の遵守等を国是とした。国民に内的幸福も与え得る環境を作る。その為の政策として国は、①経済成長と開発 ②文化的、精神的な遺産の保存と振興 ③環境保全と持続可能な利用 ④良き統治の4つを掲げている。この理念を支える最重要のものとして仏教がある。どの家にも仏壇がありお参りを欠かさない。ブータンでは優秀な頭脳の流出は見られない。海外留学生の99%が帰国して自国の振興に力を注ぐと言う。事実、農林省主催の遊牧民フェスティバルで出会った閣僚級や官僚達も皆若くエネルギー、建国の理想に燃えているようだった。

豊かな風景、伝統様式を守る民家集落や街並、東に移動するに従い色濃くなるブータン色、東西を分断する深い谷と山々、要塞のようなゾン(僧院兼政庁)、多くの古刹や仏塔、経文旗竿など、「ゴ」や「キラ」を着て祭りに集う人々など。地縁血縁の絆の強さ、旅人にも親近感を絶やさない笑みなど、印象深い。

……以上、増山会員の体験をお聞きし、昨年国賓として来日されたブータン国王夫妻の笑顔と気品ある姿を思い出しながら、あらためて豊かさとは、幸せとは何か考えさせられた。
(文責 北村克彦会員)

◇◇◇ ハッピーバースディ ◇◇◇

1月に誕生日を迎えました！



左から稲田興・池田寛・堀内陽二の各会員

2月に誕生日を迎えました！



左から蓮池光枝・山田正司・鴻池敬和・古澤靖雄の各会員

◇◇◇ 私の多摩ニュータウン(3) ◇◇◇

「私の多摩ニュータウンライフ 40年」永田宗義会員

職住接近を望んで、昭和47年3月に積立分譲住宅の愛宕団地に入居して多摩市民となる。当時はニュータウン建設が真っ只中で、あちこち工事が進んで日々変化して落ち着かなかった。12年後に低階層分譲住宅の鶴牧団地に転居し、今日まで40年の多摩ニュータウンライフをせわしく生き生きと送ってきた。当市は、都下のベッタウンとして「住む・働く・憩う・学ぶ」を兼ね備えた複合都市へと総合的に開発を図ってきたおかげで、他では享受できない優れた利点が幾つかあり、その利便性を享受している。例えば、計画的に配置された住宅地を中心に整備配置された公園・遊歩道など緑のスペースが広大で、住みやすく憩いによく自然環境に恵まれ大きな魅力になっている。週末には若い夫婦が公園に子供と一緒に集い合い、思い思いに楽しく憩っている。

62歳の平成14年7月のリタイア時に、9年の単身赴任生活を終えて戻り、第2の人生をスタート、その生活をいち早く軌道に乗せるべく、地域を知り、変化を知り、ニュータウンの現況を知り、また健康問題克服のためにと、ウォーキングを始めた。それから、緑豊かな整備された遊歩道のルートを探るなど、多摩の都市計画に興味を持ち、平成16年4月に多摩市都市計画審議委員に一市民として応募、翌月から2期4年審議委員を務めた。

◆毎日のウォーキングから写真を趣味に

毎日欠かさず早朝・午前・午後と3回にわたって行う1日2~3時間のウォーキングから見つけた素晴らしい点景や、その彩りの変化や、草花の美しさなどを記録に残



「そよかぜの道」のけやき並木(最初の作品)

そうと写真に撮り始めた。そこから、写真による表現をどうすべきか写真に関して学び、自分なりに習得し、工夫もして満足できるレベルに。

そしてウォーキング中发现した美しい花々を撮らせていただいた近隣の方々にお礼の写真を手渡しして対話のキッカケにもした。また多摩の点景を撮影した中からプロバスキューズの第34号~39号



白ユリの四姉妹

と41号のトップページに光栄にも「多摩の街路樹シリーズ」として写真を掲載させていただいた。

「彩り空間の美」や「四季折々の移りゆく美」を求めて活動範囲を広げ、撮影場所の現況やローカル天候を調べてから出掛け、大いに写真ライフを楽しんでいる。

◆「彩り空間の美を感謝の心で写真に」のテーマで写真展コーヒーショップ「白樺」の店長と親しくなり、多くの人の意見や感想、アドバイスなどをいただければ写真をやる励みになると思い、写真展開催を相談したら快諾をいただき平成18年5月に写真30点で第1回写真展を開催した。今から思えば評価に値する程のレベルでない素人写真にも色々貴重なアドバイスをいただけた。それを励みに精進し毎年開催を続け、今年第6回目を32点展示し、多くの方から過分な評価や励ましをいただき心から感謝申し上げたい。

第3回の写真展に来訪した滝川益男・神谷真一両会員に当プロバスクラブに入会を勧められ、その後経験豊かな会員の皆さんと交流できるようになり友好が広がった。また仕事仲間であったOBとも写真展を通して懇談・親交できるようになった。写真の友もでき一緒にカメラ持参で出掛けている。



朝陽に煌めく尾根幹線のスキ

「継続は力なり」を実感するこの頃。ウォーキングと写真のおかげで健康問題を克服できているので今後も継続したい。また感動と感謝の心を大切に楽しく悔いなくお役にたてるよう過ごしていきたい。

◇◇◇ プロバス寺子屋 ◇◇◇

「出前そろばん教室」雑感

古澤靖雄会員

7年目を迎えた「出前そろばん教室」に向け、昨年9月早々、当クラブの趣旨を各校に連絡したが、担当教諭の異動、学習指導の改革、諸事情などで今年度は2校が見送りとなった。幸いにも昨年4月統合した新「貝取小学校」と、実績のある「第2小学校」が趣旨を理解していただき「そろばん教室」を開く運びになった。両校で対象の生徒数は、3学年6学級で延べ408名でした。あるクラスでは



そろばん教室

「そろばんの勉強をしたい」「そろばんを使ってみよう」と書かれた3学期の目標票が何枚か掲示されていた。先生の事前PRを聞いてのことと思うが胸が熱くなる思いと、教える重さを痛感した。今年の子供たちは、総じて利口タイプの子が多く見受けられたが、中には天真爛漫に振舞う子がクラスに一人二人はおり、教室のムードメーカーとして頑張っていた。

いつもながら子供たちの笑顔、輝く目、純粹無垢な目線、行動から若さと元気葉のオーラを授かったようで疲労困憊の老体が癒された。

今後の課題は「そろばん暗算」の指導、4年生も指導対象とすることと思っている。課外・特殊教育を積極的に取り入れている姿をみることができ、当クラブの出番も数多くあると思います。会員の積極的行動に期待いたします。

雪が降る…春を感じます」と新春の寿ぎをとらえた一言…さすが俳人。各自3句選句の後、披講が始る。その都度作者の俳号が飛ぶ。同時に点盛役が採点表に書き込む。各自が選句した3句のうちの「天」の句作者に、賞品係がプレゼントを届ける。集計が終り得点・順位の発表。雪二先生から賞品授与と寸評。さらに雪二先生選の三賞(天・地・人)の発表と寸評。一連の動きが澁みなく進む。運営初体験のわれわれも動きに飲み込まれ、新年句会のドラマの一時を楽しんだ。

◇◇◇ サークル活動 ◇◇◇

「からまつ東京新年句会」奮戦記

増山敏夫会員

わがクラブの俳句サークル「笈句会」は、「からまつ」俳句会の主宰由利雪二氏に指導をお願いしている。「からまつ」俳句会所属の6句会50名が集う東京地区新年句会が、1月20日午後、関戸公民館で行われた。笈句会が設営準備、運営等を受け持つ幹事役を仰せつかった。池田・蓮池(守)両会員をヘッドに、みな初体験ながら社会経験は豊富、前もってそつなく準備する。会場のレイアウト図、壁に貼る毛筆の横断幕や席名、掲示用採点表などの作成、お土産の準備、事前に郵送されてきた投句の整理、賞品の準備など結構大変だった。当日は開場と同時に全員で図面通りにレイアウトを行い、万全な設営準備を行って開会を待った。

正面に主宰・副主宰・同人会長・笈句会会長・披講(選句読み上げ)の席、他の3辺に句会毎に着席、句会が始まる。

由利雪二主宰挨拶「1月20日は二十日正月、又は骨正月と言い、魚の骨や頭をスープにして正月納めとした由来、賞品を出した江戸俳諧の新年句会が今の新年句会の始まりである」と…感心する。池田笈句会長挨拶「句会を始めて4年、雪二先生のご指導のおかげでメンバーの句も形になってきたようです」と。司会河野翔氏挨拶「なんとなく

雪が降る…春を感じます」と新春の寿ぎをとらえた一言…さすが俳人。各自3句選句の後、披講が始る。その都度作者の俳号が飛ぶ。同時に点盛役が採点表に書き込む。各自が選句した3句のうちの「天」の句作者に、賞品係がプレゼントを届ける。集計が終り得点・順位の発表。雪二先生から賞品授与と寸評。さらに雪二先生選の三賞(天・地・人)の発表と寸評。一連の動きが澁みなく進む。運営初体験のわれわれも動きに飲み込まれ、新年句会のドラマの一時を楽しんだ。

わが笈句会の成績も新人集団にしては上出来の戦果を上げる。三賞の「天」に川久保魚水さん、「人」に鈴木透水さんが輝いた。当初、句歴の浅い笈句会の幹事役を危ぶむ声があった由だが、万事スムーズに終了した。いつものことながら恒例の打ち上げは大いに盛り上がった次第。



新年句会風景

◇◇◇ 会員の活動 ◇◇◇

永田宗義会員の写真展

平田哲郎会員

去る1月7日から2週間にわたり、永田会員の6回目の写真展が、多摩市貝取のコーヒESHOP「白樺」で開催され、この一年の労作32点が壁面一杯に飾られていました。



会場での永田会員

その取材範囲は、麗峰富士山の周辺、写材の宝庫である信州や地元多摩周辺の四季、関東一円の

景勝等広範にわたり、その撮影への熱いエネルギーと労力に感服しました。この2週間に来訪された方々の評価は非常に高いものがあり、特に東山魁夷画伯の『緑響く』のモチーフと伝えられる御射鹿池(みしゃがいけ)のたたずまいと上高地田代池の「昇陽の瞬間」の幽玄な趣は絶品でした。

特に、田代池の「昇陽の瞬間」はわれわれ旅サークル(上高地一泊ツアー)のメンバーの一行と別れて、独り厳寒の上高地を朝日を求め逍遥した折の一齣(ひとこま)と聞いて、その粘り強い情熱に驚かされました。

◇◇◇ 私の一品 ◇◇◇

「鞆」はミタ（見た）！

村上伸茲会員

私のこだわりは鞆。今日まで、常に生活を共にし海外出張や国内各地での会合等にて、私を助けてくれる頼もしい私の分身といえる。鞆いっぱい専門書やレポートを入れて持ち歩いていた。使わなくとも何となく心が落ち着くのだが、回りからは“村上の移動図書館”と呼ばれていた。

「My 鞆」にまつわるいくつかの失敗談を紹介しよう。

失敗1：デトロイト空港でのこと。私の旅行鞆が沢山の書類のため重すぎ、コンベアーが止まってしまった。多くの乗客の荷物が出てこないで大騒ぎになった。飛行機が停止した時、貨物室から私の鞆が出て運搬車に乗るのをはっきりとみていたので、このことを係員に説明した。周りの乗客が荷物が出てくるのを待っているなかで、私は大きい身体を小さくして「分身のMy 鞆」の登場を待った。

失敗2：シカゴ空港でアメリカ国内線に乗り継いだとき、私の旅行鞆は北極まで行ってしまった。ミネアポリス空港で、3日後に、無事荷物を受け取った。結局、会議に資料が間に合わず手書きのOHPで対処。どのような事態が起きても対応することを学んだ貴重な経験であった。

現役時代「院内感染制御」プロジェクトの事務局を担当したが、これは感染制御について大学病院の教授や公立病院の院長の方々をメンバーとし、感染制御システムについて研究するプロジェクトであり、K先生をエスコートして、3Mの本社、米国疾病予防管理センター等を度々訪問した。

K先生は、医学会の長老であるが、研究者の研究姿勢について、合い通じるものがあり有意義な旅行であった。

失敗3：K先生も私も鞆が好きなのが似ていた。旅の帰途、荷物が増えたことを口実に、ニューヨークで鞆を買おうという



筆者の移動図書館を担った鞆たち

ことで、コーチ、ダンヒル、バーバリーをはしごしたとき、買った鞆を両手に持った私は1月の大雪で凍結した道路で見事スッテンコロリ！すぐに数組の中年夫婦が駆け寄って起こしてくれた。体より買った鞆のほうが心配であったが幸い大丈夫であった。

エピソード：ニューヨークに住む息子を訪ねるときは5番街のダンヒル店をのぞくことが多かった。私の鞆・時計・コート・めがね等を見て、店のオーナーが大きなジェスチャーと共に「Oh! Dunhill Boy!」とウエルカムしてくれた。Boyは、白髪の中年男であったのだが……。アメリカのユーモアはとてもいい気分してくれたが、もう1品が私の手許に増え、財布は軽くなった。

◇◇◇ 新会員紹介 ◇◇◇

藤寄喬子会員

多摩村関戸の出身。旧鎌倉街道の市役所より下ること100mの所で、旧多摩第一小学校の学用品を販売する軒商店の娘さん——。同級生に言わせると頭が良くて“ちょっと違った存在だった”とか！。面倒見の良さは抜群、地域のために婦人会で活躍、農協、つむぎ館等々



——。優しい御主人ととても仲の良い御夫婦、趣味も多彩で、パステル画、ソシアルダンス（だから姿勢が良い）、シャンソンを歌い、チェロを奏でる。性格はさっぱりしていて、くよくよしない、腰の痛いのが玉にキズ。よい方を紹介できうれしいです。（滝川道子会員記）

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

スマートフォンの急速な普及に、我々高齢者はただただ驚くばかりである。これに伴ってスマートがつく熟語が氾濫し始めた。曰く「スマートシニア」「スマートハウス」「スマートコミュニティ」「スマートシティ」である。「スマートシニア」の意味は、セカンドライフを意欲的に生き、前向きな姿勢と行動力を持ち、生活を楽しむシニアのことだそう。スマートプロバスで頑張りたいものだ。

(村上伸茲広報委員記)

◇◇◇東京多摩プロバスソング◇◇◇

作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ

集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる

集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ